

ジャグラ作品展

Part1 最終審査会で入賞作品を決定

経済産業大臣賞に (株)リーブル (高知) & (株)河内屋 (東京・港)
厚生労働大臣賞に 陽光社印刷(株) (福島) & (株)カミヤマ (愛知)

平成 27 年度ジャグラ作品展の最終審査会が、4 月 15 日 (金)、ジャグラ本部にて行われ、経済産業大臣賞・厚生労働大臣賞など、各部門の受賞作品が決定しました。今年度は例年同様 4 部門 (出版印刷物、宣伝印刷物、業務用印刷物、開発・開拓部門) で実施され、応募総数は 452 点でした。

×

全国から 450 点余の応募

ジャグラ作品展は、コンクール委員会 (高野直樹委員長) の所管で開催するもので、昭和 40 年より開催されている歴史ある事業。長年、会員企業自らが応募部門を選択する方式で行われてきたが、「他の部門であれば入賞が見込めるのに」といった審査委員の意見があったため、平成 22 年度から審査委員が部門を決定する方式に変更されました。

今年度は、平成 27 年中に印刷 (完成) された作品を対象に、平成 28 年 1 月 1 日より 3 月 31 日までの間、募集し、452 点の応募がありました。

昨年同様、部門決定の第一次審査会、最終審査への



応募作品をチェックする最終審査委員の皆さん (4 月 15 日)

通過作品決定の第二次審査会を 4 月 8 日 (金) に同日開催し、下表のとおり各部門の応募作品の絞込みを行い、最終審査会にて入賞作品を決定したものです。

部 門	応募	通過数
[A] 出版印刷物部門	117	13
[B] 宣伝印刷物部門	102	11
[C] 業務用印刷物部門	120	13
[D] 開発・開拓部門	113	14
合 計	452	51

■第一次及び第二次審査の審査委員 (敬称略)

高野直樹 / 常磐総合印刷(株)、吉岡新 / 共立速記印刷(株)、熊谷正司 / (株)くまがい印刷、笹岡誠 / (有) ドゥ・プラン、樋貝浩久 / (有) 東和プリント社、青木滋 / 西武写真印刷(株)、菅野潔 / (株)興栄社、尾形文貴 / (株)みつわ、齊藤秀勝 / (株)文化ビジネスサービス、原田大輔 / (株)グッドクロス、岡澤誠 / (有) 中溝グラフィック、沖敬三 / ジャグラ専務理事、谷麻雄 / 員外: DTP スクール講師

■最終審査の審査委員 (順不同・敬称略、欠席除く)

経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課・課長補佐 / 高橋淳子 厚生労働省職業能力開発局能力評価課・職業能力検定官 / 関一郎太
全国中小企業団体中央会・総務企画部副参事 / 鈴木亮三 (一社) 日本印刷産業連合会・専務理事 / 堀口宗男
(公社) 日本印刷技術協会・研究調査部課長 / 千葉弘幸 日本印刷機材協議会・副会長 / 伊藤年明
(学法) 日本プリンティングアカデミー・広報 / 野口智子 (株)印刷出版研究所・代表取締役 / 沼尾佳憲
(株)日本印刷新聞社・取締役 / 新井秀夫 (株)ビバン・編集長 / 時田清
ニュープリンティング(株)・常務取締役 / 菅野孝市 印刷時報(株)・取締役東京支社長 / 松村雄司
(一社) 日本グラフィックサービス工業会・コンクール委員長 / 高野直樹

A 出版印刷物部門

経済産業大臣賞 炭都 ときの欠片と追憶の光 三池、池島、太平洋から (株)リーブル/高知



経済産業省商務情報政策局長賞

「スロウな旅 北海道」
東エリア・西エリア・別冊
ソーゴー印刷(株)/北海道



全国中小企業団体中央会 会長賞

日々の料理&テーブル
共立速記印刷(株)/東京



(一社)日本印刷産業連合会 会長賞

LE PARFUM ルパルファン ある感覚
日本ハイコム(株)/東京



ジャグラ会長賞

吉浜のつなみ石
～先人の教えをつなげようキットずっと未来へ～
(有)大船渡印刷/岩手



B 宣伝印刷物部門

経済産業大臣賞 活版印刷 カレンダー (株)河内屋/東京



経済産業省商務情報政策局長賞

大分市市勢要覧 2015
小野高速印刷(株)/大分



全国中小企業団体中央会 会長賞

名古屋造形大学
卒展ポスター、フライヤー
(株)クイックス/愛知

(公社)日本印刷技術協会 会長賞

Synesthesia (シナスタジア=共感覚)
新典社 A1 ポスター
恵友印刷(株)/東京



ジャグラ会長賞

せと銀座通り カレンダー 2016
(株)カミヤマ/愛知



Part1 最終審査会で入賞作品を決定

出版

宣伝

ジャグラ作品展

C 業務用印刷物部門

厚生労働大臣賞 「福島県立美術館作品選」ポケット・ミュージアム 陽光社印刷(株)/福島



厚生労働省職業能力開発局長賞

沼袋遺跡 発掘調査報告書
中央印刷(株)/山形



全国中小企業団体中央会 会長賞

初沢亜利写真集
『沖縄のことを教えてください』
(株)オノウエ印刷/長野



日本印刷機材協議会 会長賞

澤柳政太郎とその時代
川越印刷(株)/長野



ジャグラ会長賞

新潟県書道協会創立 60 周年記念
第 30 回会員展 作品集
(株)新潟印刷/新潟



D 開発・開拓部門

厚生労働大臣賞 むくもり 正色漢字辞典 (株)カミヤマ/愛知



厚生労働省職業能力開発局長賞

ストレスチェックサービス
(株)ジーピークリエイティブ/東京



全国中小企業団体中央会 会長賞

えんま商盛会
(株)ダーツ/東京



(学法)日本プリンティングアカデミー賞

大元都市
(株)クイックス/愛知



ジャグラ会長賞

フォトグラくしろ 5号・6号
(株)藤プリント/北海道



Part1 最終審査会で入賞作品を決定

業務用
ジャグラ作品展

開発・開拓

各部門別の入賞作品

A. 出版印刷物部門			
経済産業大臣賞	炭都 ときの欠片と追憶の光 三池、池島、太平洋から	(株)リーブル	高知
経済産業省商務情報政策局長賞	「スロウな旅 北海道」東エリア・西エリア・別冊	ソーゴ印刷(株)	北海道
全国中小企業団体中央会 会長賞	日々の料理&テーブル	共立速記印刷(株)	東京
(一社)日本印刷産業連合会 会長賞	LE PARFUM ルパルファン ある感覚	日本ハイコム(株)	東京
ジャグラ会長賞	吉浜のつなみ石～先人の教えをつなげようキットずっと未来へ～	(有)大船渡印刷	岩手
印刷時報(株)賞	渡辺陽子 写真集	(株)新潟印刷	新潟
(株)印刷出版研究所賞	大本営が置かれた半田	(有)一粒社	愛知
作品展審査会 委員長賞	アルプちゃんといのちちゃん	川越印刷(株)	長野
佳作	中国語文法	(株)いなもと印刷	茨城
B. 宣伝印刷物部門			
経済産業大臣賞	活版印刷 カレンダー	(株)河内屋	東京
経済産業省商務情報政策局長賞	大分市市勢要覧 2015	小野高速印刷(株)	大分
全国中小企業団体中央会 会長賞	名古屋造形大学 卒展ポスター、フライヤー	(株)クイックス	愛知
(公社)日本印刷技術協会 会長賞	Synesthesia (シナスタジア=共感覚) 新典社 A1 ポスター	恵友印刷(株)	東京
ジャグラ会長賞	せと銀座通り カレンダー 2016	(株)カミヤマ	愛知
(株)日本印刷新聞社賞	グランドステージマツモト	川越印刷(株)	長野
作品展審査会 委員長賞	SNSニューズレター	(株)みやもと	栃木
佳作	キクチ眼鏡専門学校 学校案内	(株)荒川印刷	愛知
C. 業務用印刷物部門			
厚生労働大臣賞	「福島県立美術館作品選」ポケット・ミュージアム	陽光社印刷(株)	福島
厚生労働省職業能力開発局長賞	沼袋遺跡 発掘調査報告書	中央印刷(株)	山形
全国中小企業団体中央会 会長賞	初沢亜利写真集『沖縄のことを教えてください』	(株)オノウエ印刷	長野
日本印刷機材協議会 会長賞	澤柳政太郎とその時代	川越印刷(株)	長野
ジャグラ会長賞	新潟県書道協会創立 60 周年記念 第 30 回会員展 作品集	(株)新潟印刷	新潟
(株)ピバン賞	(株)一関プリント社創業 60 周年記念誌「耀く未来」	(株)一関プリント社	岩手
印刷タイムス(株)賞	町田市名誉市民・東京都名誉都民 三橋国民 鎮魂 70 年目の夏 図録	(株)野毛印刷社	神奈川
作品展審査会 委員長賞	「モリウシってなに？」絵本	トーバン印刷(株)	岩手
D. 開発・開拓部門			
厚生労働大臣賞	ぬくもり 正色漢字辞典	(株)カミヤマ	愛知
厚生労働省職業能力開発局長賞	ストレスチェックサービス	(株)ジェーピークリエイト	東京
全国中小企業団体中央会 会長賞	えんま商盛會	(株)ダーツ	東京
(学法)日本プリンティングアカデミー賞	大元都市	(株)クイックス	愛知
ジャグラ会長賞	フォトグラくしろ 5号・6号	(株)藤プリント	北海道
ニュープリンティング(株)賞	Humanity and Nature	(株)北斗プリント社	京都
作品展審査会 委員長賞	第 59 回日本リウマチ学会 総会・学術集会 抄録集およびプログラム	(株)プリプレス・センター	北海道

Part2 作品展大臣賞受賞社に聞く

出版印刷物部門 経済産業大臣賞

坑道の闇のクロ、匂い立つクロ、汗にまみれたクロ、消えゆく『炭都』の世界を表現し尽くす！その決意からすべてが始まった。

炭都 ときの欠片と追憶の光 三池、池島、太平洋から / (株)リーブル (高知)

この度は経済産業大臣賞という栄えある賞をいただき、心より感謝申し上げます。思い起こせば2012年の5月、それまで一度も応募したことのない作品展に、絵本『ひかるもの』を出品し、図らずも今回と同じ経済産業大臣賞をいただき、社員みんなで大騒ぎしたことを昨日のこのように思い出します。その授賞式の際、私の隣に座られた神奈川県支部・(株)野毛印刷社の金子徹会長に、「初めて出品したんですよ」とお話しすると、「いや、一回いただいたら何度もいただけるようになりますよ」と、思いもかけない励ましのお言葉をいただきました。そのお言葉が予言したかのように、2014年にはジャグラ会長賞を、そして2年後の今回、またもや経済産業大臣賞をいただいたわけです。2012年の段階で、このような状況になることを誰が予想できたでしょうか。私自身、夢だにしませんでした。

このような弊社にとっての快挙が、なぜ起こりえたかということに改めて考えたのですが、そこには3つの要素がありました。

- 1 素晴らしい素材との出会い
- 2 素材を最大限生かすための妥協のない探究心
- 3 どんなことでも自由に追及することが許される風土

以上の3つです。今回、編集部より本原稿の依頼があったおかげで、この3つの要素を発見できたことは、私にとってたいへん幸運でした。改めて心より感謝申し上げ、本題に入りたいと思います。

素晴らしい素材との出会い

私たちの仕事はすべて、まず著者が提示する素材との出会いから始まります。それらにはいい素材であったりそうでなかったりとマチマチですが、今回、幸いにも著者からいただいた写真プリントはとても素晴らしいものでした。著



者はモノクロネガを一枚一枚、自分が追い求める写真を徹底的に追求しながら、丁寧にプリントに焼き付け、仕上げていったのでした。今回の経済産業大臣賞受賞は、この優れた素材との出会いを抜きにしてはありえず、まず著者のご努力に心から敬意を表したいと思います。

さて、チーフディレクターは、送付されてきたそのプリント写真を見て、ひと目でその圧倒的な写真の存在感に魅了されたようです。「これは普通に印刷したのでは表現できそうもない。しかし何としてもこの素晴らしい写真たちを生かし切りたい！これは難しい仕事になる！」——出会った瞬間からそう思ったようです。そして決断します。デザインも印刷も、すべてをこの写真たちに命を吹き込むためにできるだけことをしよう。このコンセプトがその後のすべての作業の統一テーマとなりました。

素材を最大限生かすための妥協のない探究心

しかし、その素材を最大限に表現しきった若い社員たちの苦闘がなければ、やはり大臣賞とは無縁のものとなって

ジャグラ作品展

Part2 作品展大臣賞受賞社に聞く

いたはずで。ここにもある偶然が幸いしています。

実はこの作品を制作している頃、偶然、他に二つのモノクロ写真集を受注していたため、ほぼ三つを並行して作成するという状況にありました。一つは懐かしさと古さと温かさが要求される写真集であり、もう一つは細部まで克明で、しかも力強い再現が要求される写真集でした。そして『炭都』です。この作品の内容はタイトルそのものでした。消えようとする石炭産業の宿命の中で、最後の日まで人生をかけて働く、黒光りする探鉱夫たちの強い意思、真っ暗な中でも紛れることのない鋭い眼光。街のすべてが石炭の黒にまみれる風景。とにかく『炭都』の名にふさわしい、匂い立つ黒をどう実現するかが要求される写真集です。

このように三種三様の表現手法が要求されるような状況で作業を進めていました。それぞれが単純なスミ一色印刷では再現できない。さりとて試作したプロセスカラーでのスミ表現では、モノクロ写真集の良さは発揮できていない。そこで様々な技法を駆使して、3種類のモノクロ写真集の再現を試みることとなりました。これらの技術は社外秘でもあるため、すべてを書くことはできませんが、10種類以上の方法を試作したでしょうか。何種類もあるスミインキのどのインキを選択するか。どのようなスキニング方法をとるか。どのトーンカーブを採用するか。印刷濃度はどうするか。それらを本機校正しながら取捨選択するわけですが、そういう意味では3種類のモノクロ写真集を、同時期に受注していたことはとても幸運なことでした。もちろん作業をする社員たちは大変な労力を要するわけですから、「幸運？」となるでしょうが……。

今回の『炭都』は、イレギュラーではありましたが、契約前にサンプル写真をお預かりし、3種類程度の本機校正による試作をご提示しました。それほどチーフディレクターは、なんとしても素晴らしい作品にしたいという思いが強かったのでしょう。まだ不完全な試作でしたが、著者は弊社ならば自分のイメージに近いものを実現してもらえそうだと感じられ、ご契約となったのです。契約できない場合のリスク排除という考えは、チーフディレクターにはまるで思い浮かばなかったようです。

その後もさまざまなインキやトーンカーブで試作を重ね、その都度本機校正を提示し、今回の実行案を採用することになったのですが、この時点ではニス刷りを施すという案で意見が一致していました。より、黒さを強調したいという判断でした。しかしOKは出たものの、どう考えて

もニス刷りしない方が、より『炭都』にふさわしい臨場感になるはずだと考えたディレクターは、最終決定後に再度、ニス刷りとニスなしの二つの本機校正を試作し、著者に再提示することにしました。その結果、著者も断然ニスなしがいいと判断され、今回の仕上がりとなった次第です。作品をご覧いただけるとわかりますが、ニスを施さなかったおかげで、紙面を触ると炭が手にまとい付きそうな、「強くて深い存在感のある黒」を実現することができたのではないかと考えております。

先ほど紹介しました3種類のモノクロ写真集は、結局は3作品とも全く違う基本トーンカーブを採用し、違うインキを使用し、違う印刷手法で印刷することとなりました。その中で、特に『炭都』で採用した新しいモノクロ印刷手法を、私たちは「スーパーブラック」と命名しました。この「スーパーブラック」は弊社の今後のモノクロ写真集印刷に、大きな力を発揮するものと大いに期待をしているところです。

どんなことでも自由に追及することが許される風土

このようにして今回の『炭都』が誕生したのですが、実は私は本が仕上がるまで、この写真集を受注していることすら知りませんでした。そのため本稿に書いている内容は、すべてこれら3作品に関わった社員たちに聞いて初めて分かったことばかりです。契約前に本機校正を出すというリスクを冒していることも、見積額があるにもかかわらず、納得がいくまで何度も試作していることすら知りませんでした。打ち合わせ机に、時たま色校正らしきものが何枚も置かれているのを垣間見ながら、「これは何の仕事だろう」と思う程度であったのです。

これは先ほど書いた3作品すべてにおいて同じことが起こっていました。担当者は自分が納得できないからやるしかないと思っているのです。それは一人ではできません。デザイナーがいて、色補正担当がいて、製版担当がいて、印刷オペレータがいて、プリンティング・ディレクターがいて、チーフディレクターがいる。この作品に関わった20代から30代の若い社員たちすべてが、何の疑問も持たず膨大な時間をかけて、妥協することなく求めるものを追求しているのです。いや、疑問を持っている者も中にはいたかもしれませんが、しかし、ああでもないこうでもない相談しながら、やっぱりこれも試作しようとなれば納得して作業するわけです。

この姿勢は2012年の経済産業大臣賞受賞の『ひかるもの』の時も全く同じでした。通常印刷ではどうしても『ひかるもの』が光らないのに困った担当者たちが、勝手に新方式で印刷することを著者に提案したわけです。当初、著者は「勝手にそんなことをされるのは迷惑だなあ、とにかく早く仕上げしてほしいのに」と思ったと、後日談で語られたと聞きました。

弊社はこのような自由な行動を禁止することはありません。皆が勝手にやればとんでもないことになるのではないかといぶかしく思われるかもしれませんが、私はそうならないと考えております。植木の世界には「桜切るバカ梅切らぬバカ」という言葉があるそうです。桜の木は枝を切らずに育てる方が美しい花が咲き、梅の木は枝を切って育てる方が美しい花が咲くことから生まれた言葉です。そのため梅の木は盆栽に向いており、また小さくまとまったものが多く、逆に桜といえは、日本中に見事な大樹が多いのはこのためなのです。

会社としてきれいな形の盆栽型の社員を求めるか、大樹になる社員を求めるかですが、私はできれば社員がそれぞれ大樹に育ってくれることを願っています。そのためできるだけ自由にさせるようにしているわけです。

また、およそ何のために仕事をするかという原点から考

宣伝印刷物部門 経済産業大臣賞

ミッドセンチュリーの家具の様な佇まいの卓上カレンダー 現代の活版印刷。技法を重ねて新たな可能性を！

活版印刷 カレンダー／(株)河内屋 (東京)

今回の大臣賞は3度目の受賞になります。1回目の受賞は13年前で、印刷技術そのものの評価をいただきました。当時はCTP化が全盛で、弊社もFMスクリーンを導入した直後の、印刷の高品質化に取り組んでいたなかでの受賞でした。

2回目の受賞は3年前で、受賞作品は小口に天金加工を施し、外見的にはシルバーのボックスに見えるPUR製本のキューブ型写真集でした。この作品では、特殊印刷に特化して取り組んできた提案型の印刷ディレクションが評価されたのだと考えております。

そして今回受賞した作品は、活版印刷の卓上カレンダーです。クライアントであるデジタルガレージ様からの依頼で、今回のカレンダーを製作させていただきました。カレンダー本体はコースター原紙の特Aクッション1ミリ厚

えてみても明らかではないでしょうか。それは幸せになるために仕事をするのです。その仕事に満足することなく幸せに生きられることはありえないと思いますし、幸せに生きられない者が人を幸せにできるとも思えないのです。何のために生きるかと聞かれれば、その最大のものは幸せになるために生きるしかないと考えます。であるならば「自由に仕事をする」ということは、幸せになるためのとても大きなカギであると思うのです。

弊社にはこの「自由に仕事をする」という風土があると思っています。どれくらい実現できているかどうかは別にして、その精神は風土として根付いているのではないかと考えています。これを一般的には社風というのですが、私は社風というニュアンスは、もう少し軽いもののように感じています。会社風土ですから社風には違いないのですが、私は風土という言葉が一番ふさわしいと思っているのです。

すべての会社は、できるだけ継続して存在していくことを念願しています。私も弊社がそうなればいいと念願しておりますが、とすれば必ず在社する社員は変遷してきます。その変遷の中でも、この風土は変わることなく存在していったほしいと強く思うばかりです。

の用紙に活版印刷で強圧デボス印刷しました。

活版印刷は紙にインクを凸版で押しあてるため、文字の周囲にインクがわずかに盛り上がり、文字が力強くエッジが際立つという特徴があります。(次ページ写真)これは特に文字の存在感を主張したいときに有効です。また、活版を紙に押し当てる際の圧力の加減によって文字に凹みをつけること(デボス加工)も可能です。クッション紙でデボスを強調したり、凹み具合に変化をつけて紙の柔らかさを表現することもできます。版の圧力によって自然に生まれる立体感にはエンボス加工などとは異なった自然な風合いがあり、印刷物にプレミアム感が備わります

現在の印刷技術は非常に高精細化されています。しかし個性や味わいといった人間的な感覚に訴えるには、人の手の温もりを伝える活版印刷に勝るものはありません。

ジャグラ作品展

Part2 作品展大臣賞受賞社に聞く



カレンダーの台紙はデスクに置いて、絵になるカレンダーにしたかったので「ミッドセンチュリースタイルのインテリア」のような佇まいを目指して、デジタルガレージのアートディレクターさん達と試作を繰り返しました。出来上がった作品は、本体はコットンペーパーの様な温かみのある紙で力強いデボス印刷。台紙はOKACカード黒に、両面マットPP加工にシルバーの箔でロゴを箔押し加工することでとてもモダンな仕上がりになりました。

当社では新しい試みとして、印刷の魅力を創造していくための「プレスマンズ・ラボラトリー」をオープンしました。ハイデルベルグの往年の印刷機、B4判活版印刷T型プラテン、B3判活版印刷機KSB、A3判箔押し機GTPを中心に、新たな印刷の魅力を創造していきます。(写真上)

印刷はすでに確立された技術です。その限界を越えて私たちは「印刷のクリエイター集団」であることに強くこだわり続けていきます。

業務用印刷物部門 厚生労働大臣賞

色を管理するオペレーターが校正に出向くことで微妙な美術作品の色合いを忠実に再現！

「福島県立美術館作品選」ポケット・ミュージアム／陽光社印刷(株) (福島)

この度は、弊社の印刷物を厚生労働大臣賞に選んで頂きましたこと、誠にありがとうございます。ジャグラ作品展での大臣賞は、過去3度の受賞に続き、今回で4度目となり、印刷に携わる者としてとても光栄です。

受賞作品の「福島県立美術館作品選」ポケット・ミュージアムは、福島県立美術館所蔵作品の中から代表的な65作家・72点の作品を収めたものです。福島県は斎藤清画伯や大山忠作画伯など著名な画家や版画家を輩出しており、美術作品を取り入れた印刷物も数多く作られています。美術作品集を作成するうえで発注担当されている学芸員の方は、作品を忠実に再現したいということを切望されています。この種の仕事のすべてが本紙・本機校正であることが、そのことを物語っています。

しかし、本紙・本機校正を出したからといって、即、作

品に忠実なものとして仕上がる訳ではありません。この校正紙を基に、如何に実物と同じ色合いに近づけるかが重要なのです。通常の印刷会社の流れですと、

- ①お預かりした原稿を基に作品を仕上げ、本紙・本機校正を営業が発注担当者に持参する。
- ②営業は発注担当者の意見を聞き、指示された修正内容を現場に戻す。
- ③現場は指示された箇所の修正をして、再校正などで校正を得る。
- ④校了紙に合わせて印刷する。

といった流れが一般的かと思えます。

美術館の学芸員の担当者様は、作品や作者の知識は豊富にあります。印刷物にしたときにどこまで合わせる事が可能なのか、分からないというのが本当のところだと思

います。校正を出して、言われたことだけを修正して納めるだけでは、他の印刷会社と同じになってしまう。他社ではそこまでやらないということを、当社では行なうことにしました。

専用のカラーチャートで色合わせ

本紙校正が実物とどこがどのように違い、どのようにすれば修正出来るのかを判断出来る、技術と経験を持った者が確認することが最善策である——このような考えに立ち、15年前より営業任せでなく、色を管理するオペレーターが校正に出向き、実物との比較をすることにより、細かな部分に至るまで補正して近づけることが可能となりました。また、この色の確認には、人間の視覚感覚だけに頼らず、当社専用のカラーチャートを作成し、これを使用して色の掛け合わせを確認しています。カラーチャートは色を確認するうえでのものさしです。専用のカラーチャートを使うことで、藍・赤・黄のパーセントバランスをかなり正確に確認することが出来ます。使用しているインキや出力機のトーンカーブ、印刷機の調整の違いなどにより、同じ色の掛け合わせでも違いが出てきます。そのため当社では、専用カラーチャートは必須アイテムと考えています。

色の補正をする上で当社では Adobe Photoshop を使用していますが、このソフトの機能を十分に活かし、色相別の補正やトーンカーブやシャープネスなどの調整を行っています。カラー印刷は、藍・赤・黄・黒の4色しか使いませんので、部分的に表現出来ずに違う色合いになる部分も出てきます。このような時には部分補正を行い、出来るだけ実物に近づけるようにしています。

開発・開拓部門 厚生労働大臣賞

デジタル時代だからこそ際立つアナログ的な仕事 技術は過去からの継承、視点は現在！

ぬくもり 正色漢字辞典／(株)カミヤマ (愛知)

きっかけは「漢字・日本語教育研究助成制度」

この度は名誉ある賞をいただき心より感謝申し上げます。この『正色漢字辞典』は、名古屋市立正色小学校が3年にわたり取り組んできた漢字教育研究の取り組みが日本漢字能力検定協会に評価され、「漢字・日本語教育研究助成制度」における支援対象となり、その交付助成金で研究成果物を作成することになりました。「漢字・日本語教育

作品の中には、墨やグレーが主となる作品も多くあります。カラー印刷をする上で、カラーバランスを取って安定して墨やグレーを表現することは、とても難しいことです。そのような作品の場合は、藍・赤・黄のバランスが多少動いてもグレー部の色転びが起きないように、墨を主版に置き換え、藍・赤・黄は副版の補色に変換しています。この作品選の中にも、この方法で表現している作品があります。墨やグレーの色転びが抑えられ、思い通りの仕上がりになっています。

このような内容で制作することにより、沢山のメリットが生まれています。昔はお客様から営業を通じてのやりとりのため意思の疎通が不十分で、何度も再校正を出していましたが、現在は多くとも2回で校了としています。また、校正時に色の修正が完了していますので、印刷機上での強制的な操作は一切行いません。よって校了後の印刷での手間が掛からず、基準濃度での印刷となり、再版時にも同じ品質が保てます。

現在福島では、東日本大震災と東京電力原子力発電所の爆発事故により、5年経った今でも風評による観光客の減少や、それに伴う各産業での収益減少に苦しんでいます。現在は住宅地の大部分で除染が終わり、原発周辺の一部地区以外は通常の生活が可能となっています。ぜひ、全国から福島を訪れていただき、美術館や観光名所などを鑑賞していただきたいと思えます。

弊社はお客様のニーズに合わせた印刷物を作成し、後世に残る作品を提供すべく、今後も技術の研鑽に力を注いでいく所存です。

この度はありがとうございました。

ジャグラ作品展

Part2 作品展大臣賞受賞社に聞く

学習を進めることができるよう工夫もされています。さらに付録として、「漢字ドリル」「漢字検定」「コラム」まであるボリューム満点の印刷物です。

当初は出版社や学校の取引業者に相談されたそうですが、予算の問題でどの業者とも折り合いがつかず、一度は暗礁に乗り上げました。困り果てた担当の先生が、別の仕事の繋がりから弊社に相談されました。依頼された当初は、提示された予算では弊社でも無理と判断し、止む無くお断りする方向で考えていました。しかし、担当の先生はもちろん、校長・教頭はじめ教員全員の熱意と、コンセプトの良さに惹かれ、再度、実現可能な方法を再検討することとし、受注の運びとなりました。

コスト低減のため、原稿は原則すべてユーザーが作成したものを使用することにしました。原稿用紙を書きやすく、見やすいものにするために工夫し、なおかつスキニング作業が効率的かつ鮮明に仕上がる方法を模索しました。何せ相手は139人の小学生です。大人相手の通常の仕事でも希望通りの入稿がままならない事も多々あるというのに、小学生相手では尚更です。手書きの濃度が薄く印刷に反映されない原稿があったり、書き間違いや書き忘れ等があれば再度原稿の差し戻しをして、書き直しの依頼をしました。辞典ですので正確でなければなりません。この担当の先生方との共同チェックとゲラ確認が何よりも一番苦勞した作業でした。

『正色漢字辞典』の魅力と意義

この『正色漢字辞典』の魅力は、

- 1 手作りであること
- 2 児童と教員、学校全員一丸で作成したこと
- 3 学校教育の研究成果であり、優れた活きた教材であること
- 4 小学校生活の記念となる思い出の冊子になることです。

この冊子の印刷技術は至って普通であり、特殊なものは一切使っていません。従来の印刷製本技術であり、どこの業者でも作成できるものです。敢えて言うなら、昨今必要とされるデジタルコンテンツとは逆のベクトルを持った「アナログ的な仕事」といえます。そのことが逆に大きな意義があることに気づかされました。

今の小学生は、生まれた時からスマホやパソコン、デジタルコンテンツが周りに溢れて育った世代です。この時代

に生まれた小学生たちが自分たちの手で、それもキーボードやタブレットも使用せず、鉛筆やサインペンを使って手書きで作成し、漢字の勉強をする。その結果が本となり、辞典として長く活用できる物となったのです。

書くことで覚え、辞典を調べて勉強してきた我々大人たちでさえ、漢字の読み書きや書き順を忘れがちなこのデジタル時代において、漢字の成り立ちや書き順、読み方がわかり、大人と子供も利用できるとても意義と意味のある一冊となっています。また、子供は自分の書いた漢字の頁をお父さんやお母さんに自慢げに見せて、親は子供を褒めて団らんする微笑ましい家庭の情景も浮かんできます。子どもは自分が担当した漢字を一生忘れないのではないのでしょうか。

校長先生はじめ全教員の熱意は素晴らしく、時には休日返上で原稿を作成。その途中でも新たなアイデアがどんどん生まれ、頁数の都合上、止む無く割愛せざるを得ない原稿もありました。昨今、教育現場において色々な問題が取りざたされていますが、まだまだ捨てたものではないと実感しました。

漢字と印刷業界 / 結びに代えて

我々印刷業界は漢字（文字）との格闘の歴史といっても過言ではないでしょう。謄写印刷・活版・タイプ・写真植字・電算・ワープロ・パソコン・DTP等々、技術がどんなに進化しても、未だに外字の問題はついてまわっています。この『正色漢字辞典』はフォントやOS、外字等の諸問題を原始的かつ基本的な「手書き」という手法でクリアして完成されたことはある意味皮肉なことなのかもしれません。

弊社はこの仕事で、漢字・日本語教育の教材作成に携わることが出来たことが何よりも光栄であり、誇らしく感じています。さらに地域貢献と社会貢献の一助にもなったのではないかとささやかに自負しております。また、ユーザーが喜ぶ顔を見て、感謝の言葉をいただき、「顧客が望むものを最良の形で提供する」という印刷会社としての初心と基本を思い起こさせていただいた仕事でした。

今回のこの受賞を励みとしてより一層の技術向上と顧客のためになる仕事の探求に社員一丸となって邁進していく所存です。

ありがとうございました。